

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例
- B. 円滑な学位授与の促進
- ②厳格な成績基準と評価基準の設定や学位授与プロセスの明確化

## ②厳格な成績基準と評価基準の設定や学位授与プロセスの明確化

### 《理工農系》

#### ●岐阜大学連合獣医学研究科獣医学専攻

##### 「グローバル化に向けた実践獣医学教育の推進」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

成績の基準と評価基準を明確にしたものの、各教員が評価する内容まで研究科として十分に把握できなかった。学位授与プロセスに関しては、ある程度履修内容を明確化することができた。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

要因として、研究科が有する研究内容の幅の広さと様々な教員からなる教員数の多さがあげられる。特に、研究内容の幅の広さは、評価基準が広がる共に、一体感に欠けた印象を与えた。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

研究内容の幅の広さにおいては、連合講座あるいは領域ごとの対応が必要に思われた。研究領域ごとの基準作りやガイドライン作りの大切さを痛感している。

### 《医療系》

#### ●長崎大学国際健康開発研究科国際健康開発専攻

##### 「国際保健分野特化型の公衆衛生学修士コース」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

本研究科の学位授与は、課題研究報告または修士論文のいずれかにより審査を行っている。課題研究報告と修士論文の審査基準は定められているが、教員全てが合意できる審査結果が得られない例がある。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

課題研究報告か修士論文かの判断が困難となる理由は、学生の研究課題が文化人類学、母子保健、保健システム、感染症、衛生動物学など多様であるために、既存の審査基準に沿って学位審査を行うことが適切でない場合があるためである。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例

B. 円滑な学位授与の促進

②厳格な成績基準と評価基準の設定や学位授与プロセスの明確化

審査委員が、既存の審査規定にそって、課題研究報告か修士論文かの判断を行うが、指導教員の意見を十分取り入れたうえで、最終判断がなされている。しかし、この課題については、検討中である。